

The 7th Basho-an International English Haiku Competition 第7回 芭蕉庵国際英語俳句大会

受賞結果 result

世界43の国と地域から、1,591句の応募をいただきました。

We received 1,591 haiku(phrases) from 43 countries and regions.

Australia	オーストラリア	New Zealand	ニュージーランド
Belgium	ベルギー	Nigeria	ナイジェリア
Bosnia and Herzegovina	ボスニアヘルツェゴビナ	Northern Ireland	北アイルランド
Brazil	ブラジル	Pakistan	パキスタン
Bulgaria	ブルガリア	Poland	ポーランド
Canada	カナダ	Romania	ルーマニア
Croatia	クロアチア	Russia	ロシア
Czechia	チェコ	Serbia	セルビア
England	イングランド	Slovenia	スロベニア
France	フランス	South Africa	南アフリカ
Germany	ドイツ	South Korea	韓国
Greece	ギリシャ	Sri Lanka	スリランカ
Hong Kong	香港	Sweden	スウェーデン
Hungary	ハンガリー	Switzerland	スイス
India	インド	Tanzania	タンザニア
Indonesia	インドネシア	UAE	アラブ首長国連邦
Iran	イラン	UK	イギリス
Israel	イスラエル	USA	アメリカ
Italy	イタリア	Vietnam	ベトナム
Japan	日本	Wales	ウェールズ
Latvia	ラトビア		
Malaysia	マレーシア		
Netherlands	オランダ		

たくさんのご応募、ありがとうございました。

Thank you for your applications.



Each day drifts by

来る日も来る日も漂う

In the mirage of the desert

幻の砂漠を

A man and his boat

一人の男と舟

Momeni Khadijeh

Iran

受賞者からのメッセージ Winning message

このたび、栄えある芭蕉庵賞の受賞者の一人に選んでいただき、深く光栄に思うとともに、心から感謝申し上げます。今だに世界中の詩人を導き触発する松尾芭蕉の輝かしい遺産を引き継ぐこのコンテストで私の俳句が評価されたことは、誠に身の引き締まる思いです。俳句という芸術を讃える、このような素晴らしい場を作り上げてくださった主催者の皆様、審査員の皆様、関係者の皆様に心より感謝いたします。この受賞を励みに、これからも自然や人が経験することの美しさを探求し続け、時を超えた詩形を通じて人々と共有していきたいと思えます。



長谷川權先生 講評

海を漂う舟を描く。海は「青い砂漠」であるというのだ。発想が大胆で香り高い俳句である。日本語であれ英語であれ、当然のことだが、俳句で重要なのはまず第一に発想である。発想に詩の爆発あるいはその片鱗がなければ俳句は成り立たない。

入選 Ten Winners

<i>sleepless night -</i>	眠れぬ夜	<i>Whale awoken</i>	鯨が目を覚ます
<i>from window to window</i>	窓から窓へ	<i>perpendicular dreaming</i>	垂直の夢を見て
<i>the moon's wandering</i>	月がさまよう	<i>gently submerges</i>	静かに沈む
Tosti Maria	Italy	Rob	Australia
<i>late winter storm</i>	遅く来た大雪	<i>first light -</i>	夜明け -
<i>a pair of antlers stuck</i>	一對の鹿の角が	<i>the skylark dives</i>	雲雀が
<i>in the thicket</i>	藪で動けなくなる	<i>in its own song</i>	自分の歌の中に飛込む
Nitu Yumnam	UAE	Matei Cristian	Romania
<i>clutching the air</i>	空気をつかむ	<i>flamingoes</i>	フラミンゴが次々に
<i>a raven</i>	大鴉	<i>fall on the sea in the sound</i>	湖に降り立つ
<i>on the snow</i>	雪の上	<i>of pink by pink</i>	ピンクのざわめきとなって
Ravi Kiran	India	Kajzer Adam	Poland
<i>rugby scrum</i>	私のテーブルで	<i>my younger son</i>	下の息子
<i>at my table</i>	ラグビーのスクラム	<i>like a grouse ready</i>	羽ばたく準備のできた
<i>a family dinner</i>	家族の夕食	<i>to take wing</i>	雷鳥のよう
France Alicia	New Zealand	Gatalica Goran	Croatia
<i>September morning</i>	九月の朝	<i>fake news</i>	フェイクニュース
<i>the first chill in the air</i>	二人の間の	<i>the scream of gulls</i>	魚のはらわたを奪い合う
<i>between us</i>	空気に初めての冷氣	<i>fighting over fish guts</i>	鷗の叫び声
Rotsteeg Marjolein	Netherlands	Schopfer Olivier	Switzerland



graduation day
dandelion seeds over
the barbed wire

卒業の日
たんぽぽの種は
有刺鉄線を越える

Cezar Ciobica senior

Romania

受賞者からのメッセージ Winning message

この賞を獲得してとても幸せです。この素晴らしい詩（俳句）を生んだ日本のコンペティションでの受賞は本当に素敵なことでした。受賞した作品は詩を書き続けることに自信を与えてくれました。私の作品を評価してくれたことに深く感謝いたします。



藤田直子先生 講評

卒業式が終わって外に出ると、たんぽぽの種絮が飛んで行くのが見えました。それを見て卒業生は、私もこれからは広い世界に出て活動していくことができると思いました。風に乗ってどこまでも飛んで行かれる種絮は、有刺鉄線も潜って行きました。その種のように、若者は世界のあちこちで分断を作っている壁を解消する力があります。実際の風景を言葉で描きながら、未来への明るい期待を含んでいるところに感動しました。

入選 Ten Winners

Last harvest 最後の収穫
Lone farmer's tear 孤独な農夫の涙が
Nourishing the soil 土の栄養となる
Melissa Rose Lawrence USA

high above 戦場の
the battlefield 遥か上
a sky for all of us 空は我々みんなのもの
Vladislav Hristov Bulgaria

my younger son 下の息子
like a grouse ready 羽ばたく準備のできた
to take wing 雷鳥のよう
Gatalica Goran Croatia

silence 子供部屋が
in the children's room, 静か
angels 天使だ
Lilia Racheva Bulgaria

boat on the boat ボートの上にボート
sails in the clouds 雲の中の帆船
on a calm lake 穏やかな湖
Badovinac Katica Croatia

afterglow - 余韻
the lingering sweep 一冊の良書の残した
of a good book ひと掃き
Gatalica Goran Croatia

freshly mown hay - 刈りたての干草 -
its scent slowly fills その匂いがゆっくりと
the old graveyard 古い墓地を満たす
Matei Cristian Romania

spring promise 春の約束
I allow two frogs 二匹の蛙に
to stay at my backyard 庭にいていいよと
Iyer Lakshmi India

autumn chill 秋の冷え
the scarecrow leans against 案山子もたれる
its own shadow 自分の影
野村齋藤 Japan

Whale awoken 鯨が目を覚ます
perpendicular dreaming 垂直の夢を見て
gently submerges 静かに沈む
Rob Australia



*a worm curling
itself into a pea pod
spring dusk*

虫は体を丸めて
えんどう豆の莢の中にいる
春の夕

Parashar Vandana

India

受賞者からのメッセージ Winning message

この光栄を下さった芭蕉記念館と審査員のドゥーグル・リンズィー氏に心より感謝いたします。この賞を二回も受賞したことに謙遜と感謝の気持ちで一杯です。2022年の第四回芭蕉庵国際英語俳句大会の一度目と2025年の今回です。このコンペティションを成功に導いた関係者の皆さんと審査員の努力に感謝し、拍手を送ります。芭蕉庵の幸運と今後のご尽力を望みます。



リンズィー先生講評

微妙なことをとても巧みに表現した詩であり、自然と完全に調和しています！「春の夕」という季語の選択も完璧です。晩春の名残惜しむかのような温かさは眠りを誘い、春の昼の終りに私たちは春そのものの終りを思い、また、蛾や蝶や蜂など何らかの成虫になる前の幼虫という「春の段階」の終りを想起します。豌豆の丸味は幼虫の曲線によっても強調されています。このような昆虫の変態の、その虫が自ら豌豆の莢に変身したのではないか、もしくは、それがただしばらくの間落ち着いているだけなのか、思わず二度見してしまうときの神秘的な感触もあります。

入選 Ten Winners

*freshly mown hay -
its scent slowly fills
the old graveyard*
Matei Cristian Romania

刈りたての干草 -
その匂いがゆっくりと
古い墓地を満たす

*visiting day
a grasshopper lingers
on the threshold*
Capotă Daniela Lăcrămioara Romania

面会日
キリギリスが敷居の上を
ふらふら歩く

*breaking news
a group of dragonflies
hovers overhead*
Friedenberg, Jay USA

ニュース速報
蜻蛉の群れが
頭上に漂う

*turtle drifting backwards
a summer's evening*
Berglund Jerome USA

亀が漂いながら
後ろに進む
夏の晩

*the late train
rolls into the station -
bindweed in bloom*
Maretic/ Tomislav Croatia

遅い列車が
駅に入ってくる -
昼顔が咲いている

*heavy rain
the heron hunches
beneath bare branches*
Paula Sears USA

どしゃ降り
鷺は裸の枝の下で
背を丸くしている

*fallow field
a bumper crop
of stars*
Valentine / Kevin USA

休閑地
星の
豊作

*quince jelly
the necessary force
for the day*
Gaiardoni Barbara Anna Italy

マルメロのゼリー
一日に必要な力

*New Year's Day...
I notice age spots
on the bananas*
Bremson / Ed USA

新年...
バナナのシュガースポットが
気になる

*soft summer rain
umbrellas up
to hear it fall*
Tony Williams UK

やわらかな夏の雨
雨音を聞くために
傘をさす